

この度平成二十九年四月一日付でがん研究所・がんエピゲノムプロジェクト・プロジェクトリーダーを拝命致しました。本プロジェクトは平成二十九年四月に新しく発足した研究室であり、ゲノム・エピゲノムをはじめとする多角的な解析を通じて、がん診療に貢献しうる知見を見出すことを目標としています。

私は平成十四年札幌医科大学医学部を卒業後、内科学第一講座（消化器・血液・膠原病内科）に所属し、消化器がんや血液腫瘍の臨床と研究に従事しました。平成十九年米国のダナファーマー癌研究所に留学し、次世代シーケンサーを用いた正常乳腺や乳がん幹細胞のエピゲノム解析に取り組み、分子生物学とバイオインフォマティクスの両者を深く学びました。平成二十三年に帰国した後は札幌医科大学分子生物学講座で助教・准教授を勤め、各種がんのゲノム・エピゲノム解析や分子機能解析に携わって参りました。昨年一年間茨城県の牛久愛和総合病院で総合内科医・血液内科医として勤務し、四月から本プロジェクトに着任致しました。

基礎研究を行う動機というのは人それぞれであると思いますが、私の場合は何とかして一人でも多くのがん患者さんを救いたい、という思いが研究を行う原動力になっています。研修医時代に出会ったたくさんのがん患者さん、特に若くして亡くなっていった患者さんの顔が忘れられず、本当の意味で患者さんを救うためには研究しかないと考え基礎の道に進みました。ただ実験や研究は思い通りにいかないことも多く、自分のやっていることが社会のために何か役に立っているのだろうかと思い詰めることも多くなり、実際に昨年一年間は基礎を離れ臨床業務に専念しておりました。そこでも多くのがん患者さんに接しましたが、十数年前の研修医時代には存在しなかった新しい治療薬のオプションがたくさんあり、それが患者さんの病態を劇的に改善するのを目の当たりにし、基礎研究の重要性というものを再認識することができました。そして本プロジェクトを通じて再度基礎研究に挑戦できること、大変幸せに思います。このような機会を与えて下さった野田哲生所長はじめ関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

私自身の特徴は、これまで分子生物学、バイオインフォマティクス、そして臨床といった、幅広い分野をある程度深く掘り下げて経験している点だと思います。悪くとらえると専門性が無いということになるかもしれませんが、そのような中途半端な人間にしかできないこともあるのではないかと真剣に考えて

います。自身のこの特性を最大限活かし、がんという生き物をできるだけ俯瞰的な視点から捉えながら、それを克服するための方法を模索していきたいと思っています。私が一人でできることは非常に限られていますが、同じ志を持った仲間が力を合わせれば、何かを変えられるかもしれないと信じています。がん研の素晴らしいところは、国内随一の症例数を誇るがん研有明病院と基礎研究施設が同一敷地内にあり、臨床と基礎のエキスパートが揃っているところです。基礎研究者、臨床医、病理医、情報科学者など、各分野のエキスパートが連携し、がんの克服という同じ目標に向かって戦っていく、そのような場を作ること为目标に精一杯努力していく所存です。経験不足で未熟なため至らない点が多々あるかと思いますが、今後とも皆様のご指導・ご支援を頂けますと大変幸いに存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。